

ラックホールディングス株式会社 様

共通ポータルとしてPOWER EGG2.0を導入！
複数グループ事業体の統合一元化を推進！



通信 / IT

業務効率向上

情報共有

コスト削減

グループウェア

会社概要

会社名
ラックホールディングス株式会社
所在地
東京都千代田区平河町
2丁目16番1号 平河町森タワー
事業内容(連結事業)
システムインテグレーションサービス
セキュリティソリューションサービス
ディーラー
従業員数(連結)
1,541名(2010年9月末現在)
売上高(連結)
322億15百万円(2010年3月期)
URL
<http://www.lachd.co.jp/>

POWER EGG利用環境

導入時期
2009年11月
製品バージョン
POWER EGG2.0
ライセンス数(グループ全体)
約1800ライセンス

【取材ご協力者】



業務変革室 情報システム部・部長
犬塚 正典 様

お役職名は導入当時のものです。

POWER EGG2.0 導入経緯と目的

複数のグループ事業体が1つのオフィスビルに集結。
拠点およびリソースの集約を実施。グループとしての
コスト削減、業務効率化を実現へ。

同社は、セキュリティソリューションサービス事業の(株)ラック、システムインテグレーションサービス事業のイー・アンド・アイシステム(株)、ディーラー事業の(株)アイティークルーなど、数社のIT関連グループ会社を擁するホールディングカンパニーである。いわばITのプロ集団だ。

従来は都内に分散していたその各社が、2010年5月、現在の千代田区平河町のオフィスビルに集結。フリーアドレスによるオフィス共有、各種備品や会議室の共有を前提とした拠点およびリソースの集約が行われた。その目的は、グループとしてのコスト削減、業務の効率化にある。

さて、そこで問題になるのが、グループ会社間での情報共有。全員で使える最適情報ポータルを求めての試行錯誤が始まったのである。

統合グループウェアとしての活用

情報共有のための共通グループウェアとして活用

同社グループではPOWER EGG2.0 がどのように活用されているのだろうか？

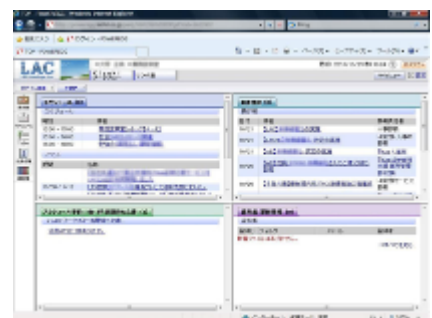
「まず、朝来ると以前から使っているWin Room という画面が立ち上がります。そしてみんな、ここからPOWER EGG2.0にログインします。するとすぐにナビビュー4分割画面が現れ、そこを見て業務が始まる、というカタチです。

Win Room というのは、社内向けのPRページのようなものです。社員旅行とか社内ゴルフコンペなどのコミュニケーション情報も載せています。

それに対し、ナビビューは仕事に関する公式ページですね。グループとはいえ以前は別々の場所で仕事していた所属会社の異なる社員たちが、いまは同じ場所で、同じようにログインし、同じ画面を見て、グループ全員が1つのサーバにアクセスして・・・、というのは何か壮観というか、ちょっと不思議な感じがします。しかし、確固とした情報共有基盤が稼働している実感がありませんね」



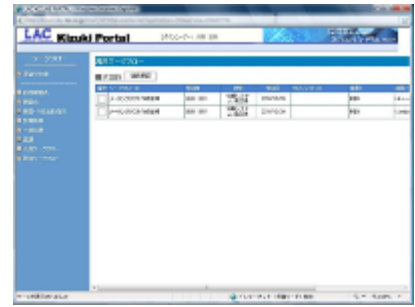
【ログイン画面 (Win Room)】



【トップページ画面 (4分割ナビビュー)】

POWER EGG2.0の具体的活用例 ～アシストメッセージ連携～

ワークフローは、実はPOWER EGG2.0のものが用いられているわけではない。グループ会社で販売していた「KIZUKI」というワークフロー製品がそのまま使われている。しかし、そのKIZUKIのワークフローを使うためにはPOWER EGG2.0から入ることになる。ナビビュー画面左下にKIZUKIとリンクする画面があり、シングルサインオンでそこをクリックすることでKIZUKI画面へリンクする。このような柔軟さも、POWER EGG2.0 が評価されている点である。



【「KIZUKI」リンク画面】

ITのプロによる評価

1. ストレスがない

ここがすごいというわけではないが、全くストレスを感じさせない所がPOWER EGG2.0 の良いところだと、犬塚氏は言う。事業会社をまたいで使う、ということで予想されたストレスは皆無だと言う話だ。

2. 操作性が良い

リテラシーを問わずに誰でも操作できる点も評価されている。導入時教育も、シングルサインオン設定のためのマニュアルが配られただけで、特段これといった教育なしに稼働がスタートしている。

3. モバイルアクセスが可能である

携帯電話からポータルにアクセスできること。実はこれが新ポータル選択に際しての必須要件の1つであった。外に出る機会が多い営業マンにとっては、携帯電話は不可欠のビジネスデバイスである。だからポータルに携帯電話からアクセスできないと実用的に意味がない。

POWER EGG2.0には、標準でモバイルアクセス機能が装備されている。そのためオプション製品等を購入することなく、携帯電話からPOWER EGG2.0上の「新着情報」や「スケジュール」等を確認することができた。

4. 移行もスムーズ、メンテもラクに

導入時のデータ移行はエクスポートがなかったため、手作業によるテキストのコピー＆ペーストで行われた。方法を説明し、各社から要員を出してもらって作業が行われた。約1カ月間の移行期間だったが、その間、従来システムのサービスを止めることはなく、スムーズに移行が行われた。

情報システム担当が行ったのは、最初の組織マスタ、社員マスタ、ルート情報の作成である。異動時のメンテはいままでもやっていたので負荷は感じないし、各事業会社別にメンテしたことから考えれば随分ラクになったと言う。

総評 / 今後のPOWER EGG活用について

「統合一元感の実現」が最も評価されている。この点をマネジメントが最も喜んでいる。

「現在のオフィスも各社間の垣根を無くすためにフリーアドレス化しているが、そのためには共通の情報基盤が必要になる。会社や所属は異なっても、同じ情報が受発信され、共有され、スケジュールによる連携ができる。POWER EGG2.0 は、経営統合を推進するマネジメントの想いを具体化するツールとして、十分に機能しているようである。

「機能面で、いま強化すべき点はとくにないですね。あれば導入時に強化していますから。POWER EGG2.0は、日常的に当たり前なもの、空気みたいな存在です。だから、あまり肥大化されても困るんです。普通に、シンプルなのがベスト。マウスだけで操作でき、1分以内にやりたいことができ、携帯からも簡単アクセスできる程度の情報量がちょうどいいんですよ」(犬塚氏)



ディサークル株式会社 パートナー営業部
〒104-0045 東京都中央区築地6-19-20 ニチレイ東銀座ビル
TEL:03-5551-0321 FAX:03-5551-0329
<http://www.d-circle.com/>

取り扱いパートナー

POWER EGGはディサークル株式会社の登録商標です。
その他記載されている会社名、製品名およびサービス名等は各社の登録商標または商標です。
本事例に記載された情報は初掲載時のものであり、閲覧される時点では変更されている可能性があることをご了承ください。